

錯視・視・展

数学で探る視覚の不思議

監修：東京大学大学院数理科学研究科教授 JST CREST 新井仁之
主催：城西大学理学部数学科

会場：城西大学水田美術館ギャラリー 3
会期：2012年5月8日(火)～6月9日(土)
開館時間：10:00～16:00
休館日：日・月曜日 入館無料

講演＋対談：数学で探る錯視のしくみー数理視覚科学への誘いー
2012年6月2日(土) 13:20～14:50
城西大学1号館118教室

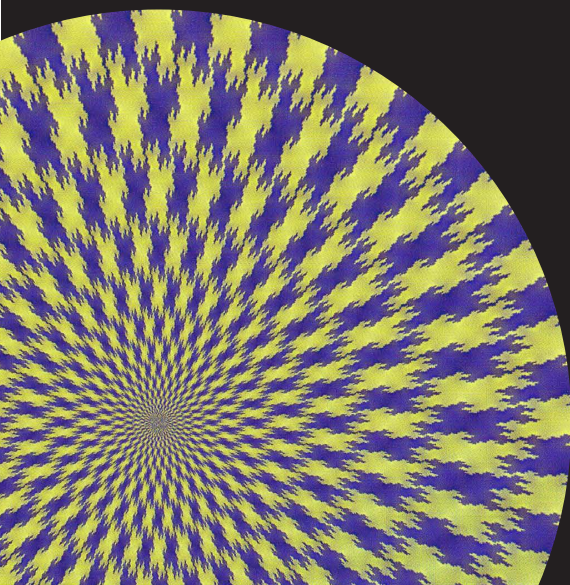


MIZUTA MUSEUM OF ART
城西大学水田美術館

〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台1-1

【お問い合わせ】049-271-7327

<http://www.josai.ac.jp/~museum/>



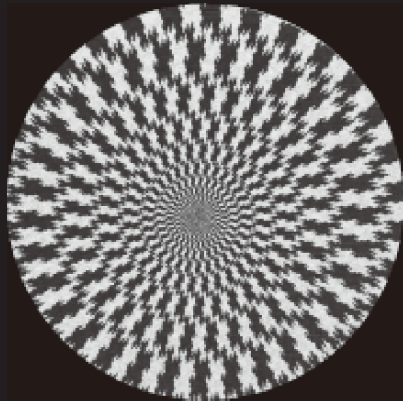
無いものが在るように見えたり、止まっているはずの文字や絵が動いて見えたりしたら、それは「錯視」かもしれません。19世紀に始まり、我が国でも20世紀後半から活発に進められている錯視現象の科学的な研究。本展は、数学からのアプローチに注目しました。視覚認識のメカニズムを数学的アルゴリズムで解き明かす、最先端数学領域における研究業績を視覚的に体感する面白さをお楽しみください。

講演+対談：数学で探る錯視のしくみー数理視覚科学への誘いー
新井仁之（監修者：東京大学大学院数理科学研究科教授・JST CREST）

×中村俊子（城西大学理学部数学科准教授）

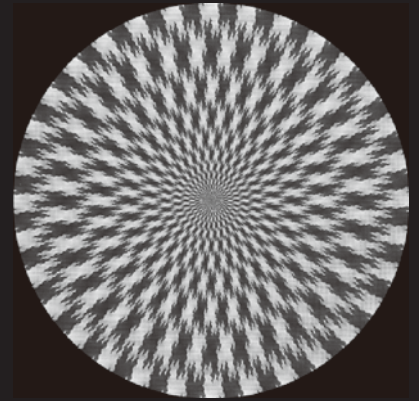
2012年6月2日（土）13:20～14:50

城西大学1号館118教室



←(Copyright© H. Arai and S. Arai, 2007)

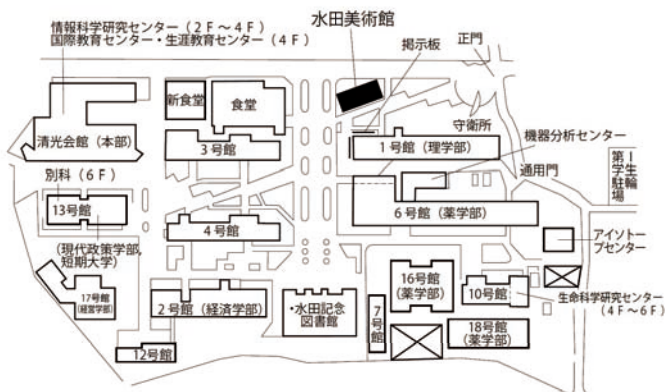
(Copyright© H. Arai and S. Arai, 2010)→



視覚が起こす錯覚のことを錯視といいます。これまで錯視は心理学や脳科学で研究されてきました。しかし、20世紀末からの数学の発展は目覚ましく、数学を使って錯視の本格的な研究をすることが可能になってきました。この最先端の数学を使って視覚と錯視の研究をする分野を、私は数理視覚科学と呼んでいます。この講演では、錯視展の展示の解説も交えて、不思議な錯視に数学を使って迫りたいと思います。特に難しい数学の予備知識は必要ありません。お気軽にご来場ください。（新井仁之）

来場者参加型研究アンケート（皆さんの体感が最先端の研究に反映されます。）

同心円が渦巻きに見える「フラクタル螺旋錯視」の色による錯視の変化、まっすぐな文字列が傾いて見える「文字列傾斜錯視」の距離による錯視の変化について、アンケートを展覧会場で実施します。



【交通案内】

●電車の場合

東武東上線坂戸駅乗り換えで東武生越線川角（かわかど）駅下車。踏切を渡り徒歩10分

●お車の場合

1. 関越自動車道鶴ヶ島インター下車、鶴ヶ島方向に進み国道407号線を直進
2. 「脚折町四丁目」交差点で右折し、左にローソン、右に狩野動物病院の看板がある交差点で右折
3. 一本松交差点を毛呂山方面に直進
4. 橋（万年橋）を渡り、「明海大学病院」の看板のある交差点を左折し直進、踏切を渡り坂道を上がる。（約20分）

〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台1-1

【開館時間】午前10時～午後4時

【休館日】日曜・月曜・祝日および4月20日（創立記念日）

【お問合わせ】049-371-7327 <http://www.josai.ac.jp/~museum/>